

平城宮跡の整備(3)

平城宮跡発掘調査部

1972年度の宮跡整備は、前年度の継続工事として、境界土塁造成、推定第2次内裏整備、水路改修、仮設道路、高圧線埋設、照明設備、ボーリング調査、草園整備をおこない、また便益施設として便所・案内板を設置した。

境界土塁工事 宮の西面大垣に相当する西側土塁を前年度に引き続き延長した。土塁は1.5mの高さでその上部に植栽をおこない、県道側(西側)に高さ1.2mの凝灰岩切石積をおこなった(第1図A)。

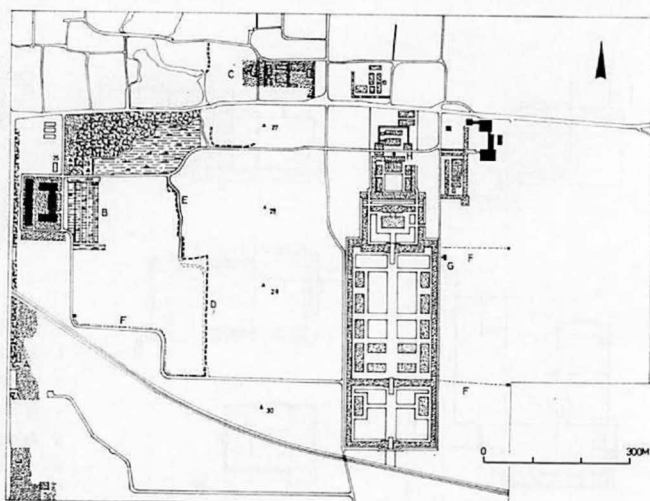
今年度施工区には第15次調査によって玉手門(西面南門)が確認されており、門基壇および脇門を復原表示した。佐伯門同様玉手門も県道により西半分を切られており、東西幅7.06m、南北幅31.75m、高さ0.99mの規模の基壇復原にとどまった。これは推定門基壇規模(2×5間)の東半分に当たり、人造礎石によって表示出来た柱位置は、棟通り列6ヶ所および東柱列6ヶ所の計12箇所である。県道によって切断された基壇の断面は凝灰岩板石仕上げで表現した(第2図)。

内裏整備 内裏整備は昨年度施工区の西側、第4～8、11次調査区域約9,100㎡についておこなった。検出遺構には建物8棟(内2棟は一部)・築地・柵(2列)・池および市庭古墳周濠があり、前3者は盛土張芝により、後2者は玉石および砂利で表示した。なお建物および柵列は従来通りの工法によった(第1図C)。

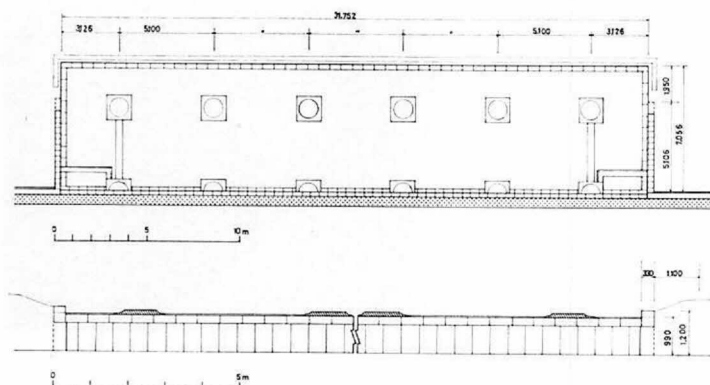
池は第4次調査によって検出されたもので、東西18m、南北17mにおよぶ不規則な形をし、最深部の深さ約80cmであった。しかしこの池の復原については、給排水および日常管理の問題から、汀線を玉石(φ20～30cm)で、水面部を緑泥片岩碎石で表示するにとどめた。

水路改修工事 推定第1次朝堂院地区西側を走る南北水路約510m、水上池の下流126mを改修した。護岸はいずれも割石2段空積にし、水路底は流量の多いものをコンクリート(厚さ5cm)とし他は砂利敷きとした(第1図D)。

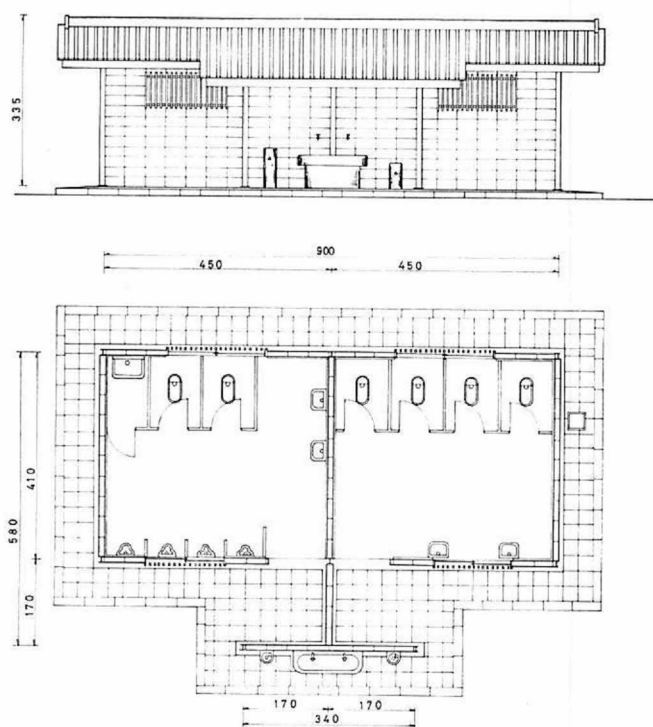
仮設道路 昭和44年度および45年度施工した仮設道路を第1次内裏朝堂院の西側で短絡するために180mを造成した。今年



第1図 平城宮跡整備図



第2図 平城宮西面南門



第3図 便所及び水呑施設

度は計画の約 $\frac{1}{3}$ にとどまった(第1図E)。

高圧線埋設および

照明設備工事 昨年度実施した発掘機械電源用6KV高圧電線の延長埋設工事で、第2次朝堂院の東方2箇所および昭和45年度施工仮設道路沿いに西方へ合

計642mについておこなった(第1図F)。

また照明設備は第2次朝堂院既整備地区内2箇所、佐伯門および仮設道路沿い3箇所、西南隅2箇所の計7基を設置した。

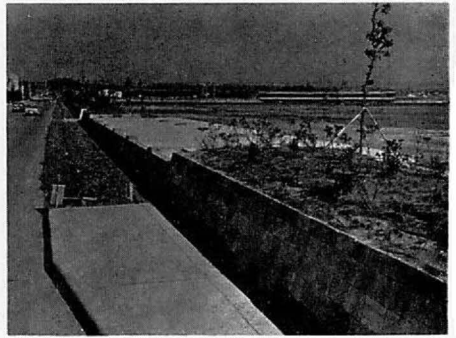
地質調査・水位水質調査のためのボーリング工事 昨年度おこなったボーリング工事および調査結果から、さらに今年度は地質状況、土性を明らかにし(将来構造物を復原させる際の基礎資料とする)、地下水が遺物の保存にどのように影響しているかを把握して、今後の遺物保存の対策検討の資料とするなどの目的で5m孔2

本、30m孔4本の計6本についておこなった(第1図25~30)。

草園造成工事 繁殖力が強く、宮内にその占有地を急激に増しつつある外来雑草の抑制や、在来種の育成、ならびに環境整備地区拡大のスピード化等の目的から、今年度は昨年度の湿地性草種育成に対し乾地性草種の育成を試みた。施工区は資料館の東約11,000㎡に、北は仮設道路肩法面を、西および南は水路堤を利用し盛土して緩傾斜の法面を造成し、比較的好乾地性のものを植栽することとした。栽培植物は(開花期・春)ヒオウギ・チガヤ・スマイレ

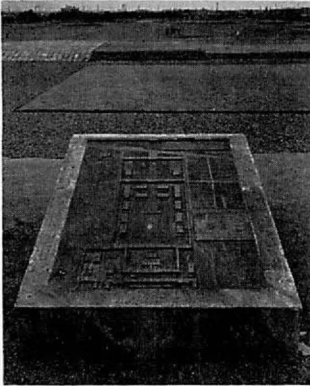
・トモエソウ・オキナグサ・シラン・ヤマユリ，
（夏から秋）オミナエシ・キキョウ・カワラナデ
シコ・リンドウ・ヒヨドリバナ・シュウメイギク
・リュウノウギク・センブリ・ヨメナ等合計29種
類である。なお植栽は各種ある程度の群度を持た
せ混植した（第1図B）。

便益施設 近年見学者数の増加が著しく，宮跡
利用のための施設として 便所1棟・水呑場（便所
に併設）および案内板（銅製1基）を設置した。



第4図 境界土塁および門基壇

便所の位置は 推定第2次朝堂院跡の東側で，その外観は 覆屋と同様のデザインとし，出
来ただけ目立たないように低地を選び建設した。建物は東西5.8m，南北9m，面積42.68
㎡，高さ3.35mデッキプレート屋根，鉄骨造ブロック積平家建で，入口前面に水容器2基，
洗面手洗器2基を併設した。汚水および雑排水工事は，建設場所を低地を選んだため，浄
化槽よりポンプアップし既存水路に接続した（第1図G）。また案内板は 整備工事の比較



第5図 案内板

的進んでいる第2次内裏朝堂院地区の遺構と整備状況の関
連，名称などを表示するために，現況地形を銅板（130×88cm
厚さ5mm）に腐食させ，建物基壇規模を3mm厚の銅板でその
上に示しさらにその上に建物規模を5mm厚の銅板を用い，ビ
スおよび金属接着剤を併用し張付けた。この銅板を大極殿土
壇上に凝灰岩切石台（縦150cm横110cm高さ30～60cm）の上に設置
した（第1図H）。

なお平城宮跡整備工事の一環として1972・73年度にわたっ
て，宮内省南殿(仮称)の復原が認められ，本年度は木材の購
入をおこなった。次年度に完成の予定である。（渡辺康史）